

# 平成25年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

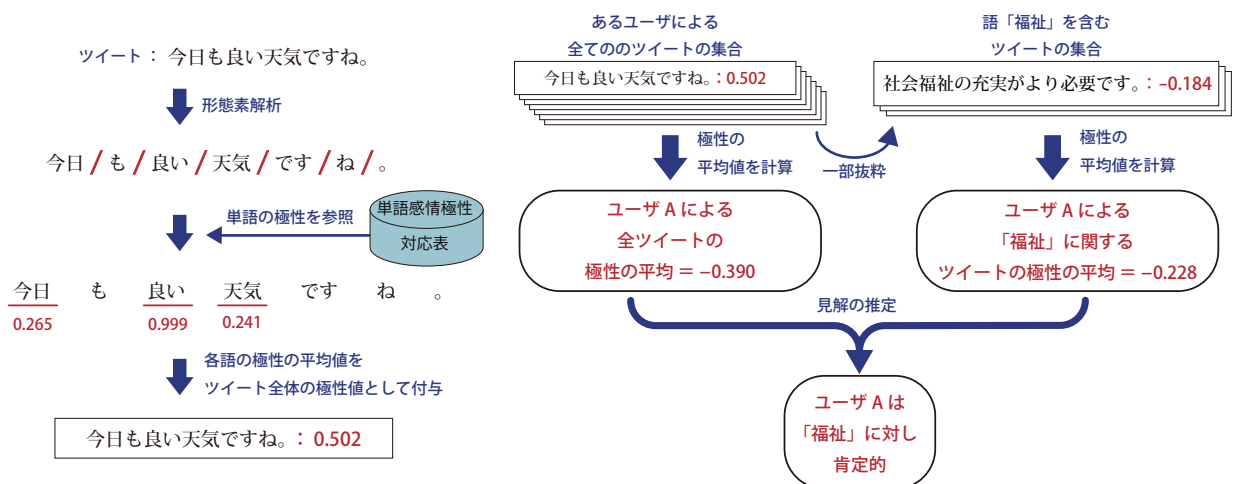
村瀬 研究室	氏 名	岩 井 宏 道
卒業研究題目	SNS利用者の特定テーマに関する見解推定	

本研究では、あるユーザが SNS へ投稿した文書の集合に基づいて、あるテーマに関してそのユーザが持つ見解を推定する手法を提案する。本研究における見解とは、「肯定的」または「否定的」のいずれかを指す。

近年、ソーシャルネットワーキングサービス (SNS) と呼ばれるサービスの利用者が増加している。SNS とは、インターネット上で社会的な交友関係を構築し、ユーザ同士が会話や交流を楽しむことを主眼としたサービスの総称である。個人がユーザとなって交流を楽しむほか、多数のユーザへの情報周知を目的として、企業がユーザとなって広報やサービスを行うなど、単なるコミュニケーションにとどまらず様々な形態の SNS 利用が行われている。また、2013 年からはインターネット上での選挙活動が解禁されたため、SNS を利用した選挙活動を行う議員候補者も多い。国会議員選挙は国民の大多数が関わる出来事であるため、SNS を通じて議員候補者の考えを知ることは、特に投票意思決定などにおいて重要である。しかし、多数の議員候補者の情報発信を随時確認するのは負担が大きい。過去の情報発信に基づいて、個々の議員候補者が関心を持つテーマや、それに対する見解を自動的にまとめて提示できれば、投票意思決定に利用しやすくなる。

そこで本研究では、あるユーザが SNS へ投稿した文書の感情極性を計算し、見解を推定する手法を提案する。一般に、あるユーザがなんらかの話題に関して言及する際には、ユーザがその話題を肯定的に捉えていれば肯定的な語が、否定的に捉えていれば否定的な語が多く出現すると考えられる。肯定的な語には 1 に近い値が、否定的な語には -1 に近い値が割り振られた単語感情極性対応表を用いて、文書ごとの感情極性を計算する。そして、あるユーザが投稿した文書全体の感情極性の平均値と比較して、あるテーマに関する文書に限った感情極性の平均値が高ければ肯定的、低ければ否定的だと判断する。

実験では、2013 年参議院議員選挙において SNS の一種である “Twitter” を利用していた議員候補者を対象とした。4 項目の政策に対する各議員の見解を推定した結果、平均 63% の精度で見解を推定可能であった。



提案手法の概要